日本百名山
登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です

vol.27 両神山（日本百名山 30/100），大菩薩嶺（日本百名山 31/100）

年末年始休暇に登る山を考えた時、3,000m級の高峰は冬将軍の到来で私の実力ではなかなか難しい。ただし、せっかくの連休なので未踏の百名山には登りたい。という事で、雪の影響の少ない奥秩父山塊の両神山と大菩薩嶺には手を付けずこの日の為に残していました。

日本百名山は全国各地に散らばっているわけですが、いつでもどこにでも登れるわけではありません。九州の山なら余程の寒波が到来しない限りは登山できますが、さすがに標高の高いアルプ　スや豪雪地帯の山などは難しく、特に雪が付くのが早い北アルプスや頚城山塊、北海道や東北の日本海側の山々は、雪解けも遅く登山適期も短いので、トータル的に登る順序をきちんと考えないと費用も時間も増大してしまいます。

また、季節の問題だけでなく、私の実力的にも経験を積まないと登れない山などあるので、日本百名山を始めた時点から、数年後までの計画（登る順番）を立て、登山経験を積むに従いそれを修正しながら今日に至っています。

最後に登る1座は決めていますが、残りの10座とかになると地理的に行きにくい場所や厳しい山が残るような気がしています。また、この百名山へのチャレンジは数年がかりの計画なので、その間、加齢とともに体力が衰えていくことは容易に想像できることから、それを含めて計画を立てる必要があります。

さて、今回登った両神山および大菩薩嶺ですが、日本百名山の中では登りやすい山に分類され、距離や累積標高、標準コースタイムのどれをとっても負担の少ない山と言えます。

但し、数字だけでは簡単に計れないのが山の面白さで、正直、それなりに疲弊した登山となりました。

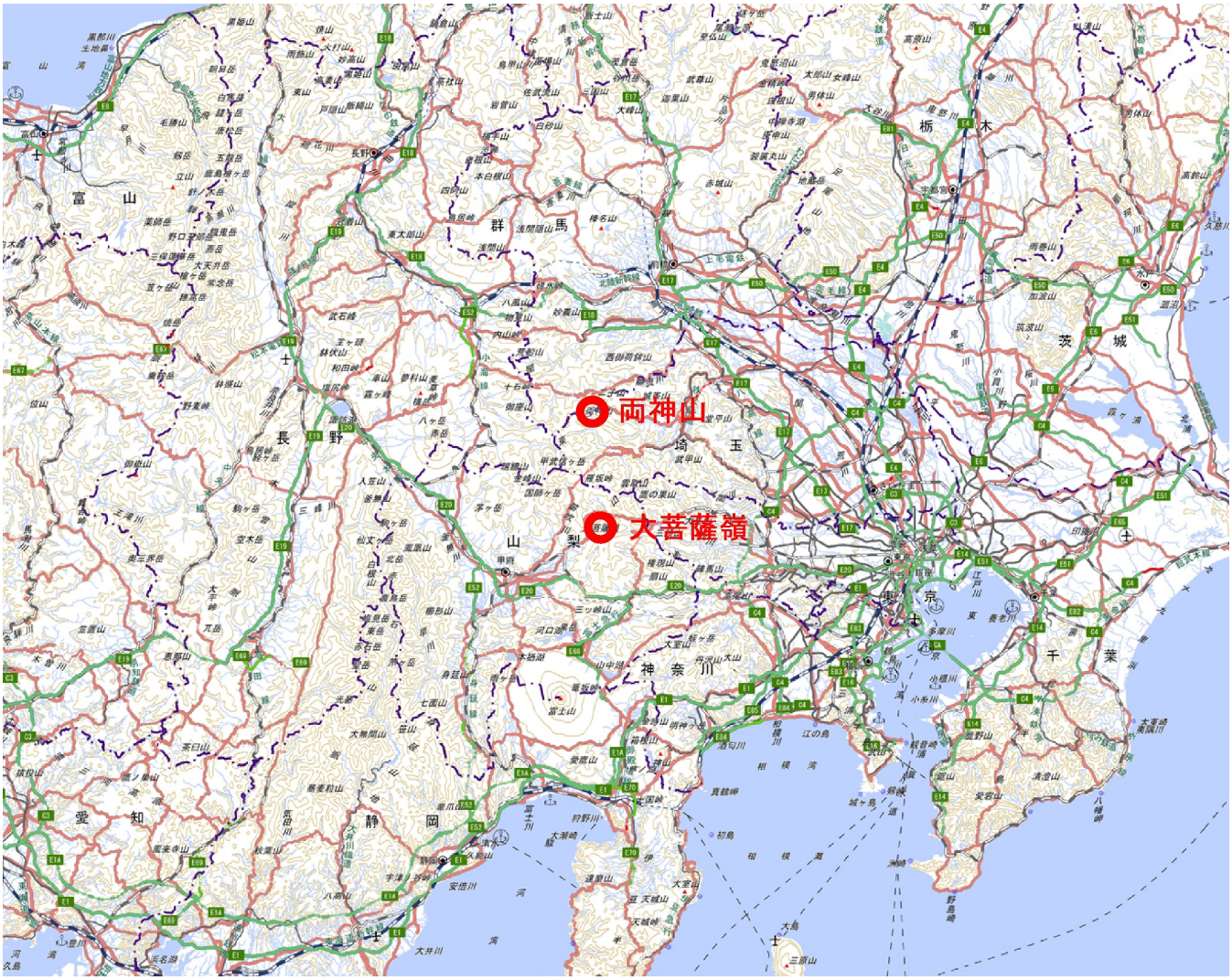
大菩薩嶺 雷岩から見る富士山　天気にも恵まれ大晦日に美しい姿が見れて満足

さて、両神山と大菩薩嶺を簡単に紹介します。両神山は埼玉県西部の秩父郡小鹿野町に位置し、群馬県との県境にもほど近い標高1,732mの山です。両神山は古くから山岳信仰の場としても有名で、山名の由来はイザナギ、イザナミの神を祀っている事から両神と呼ぶという説や「龍神を祭る山」が転じて両神山となったなど諸説あるそうです。

今回登った表登山道とされる日向大谷からの登山道には、数多くの石仏、石碑、丁目石が残されており、また山中の神社には通常の狛犬の位置に狼の石像が置かれ、山岳信仰の厳かな雰囲気を存分に感じながらの登山となりました。

次に大菩薩嶺ですが、山梨県甲州市と北都留郡丹波山村に跨る標高2,057mの山となります。山名の由来はこちらも諸説ありますが、『甲斐国志』によると後三年の役で東征した源義光が道に迷っていたところ、樵夫（きこり）が現われてこの峠まで導いたところで消え去ったといわれ、そのとき義光が「八幡大菩薩」と唱えて神の加護に感謝したことに由来すると言われています。

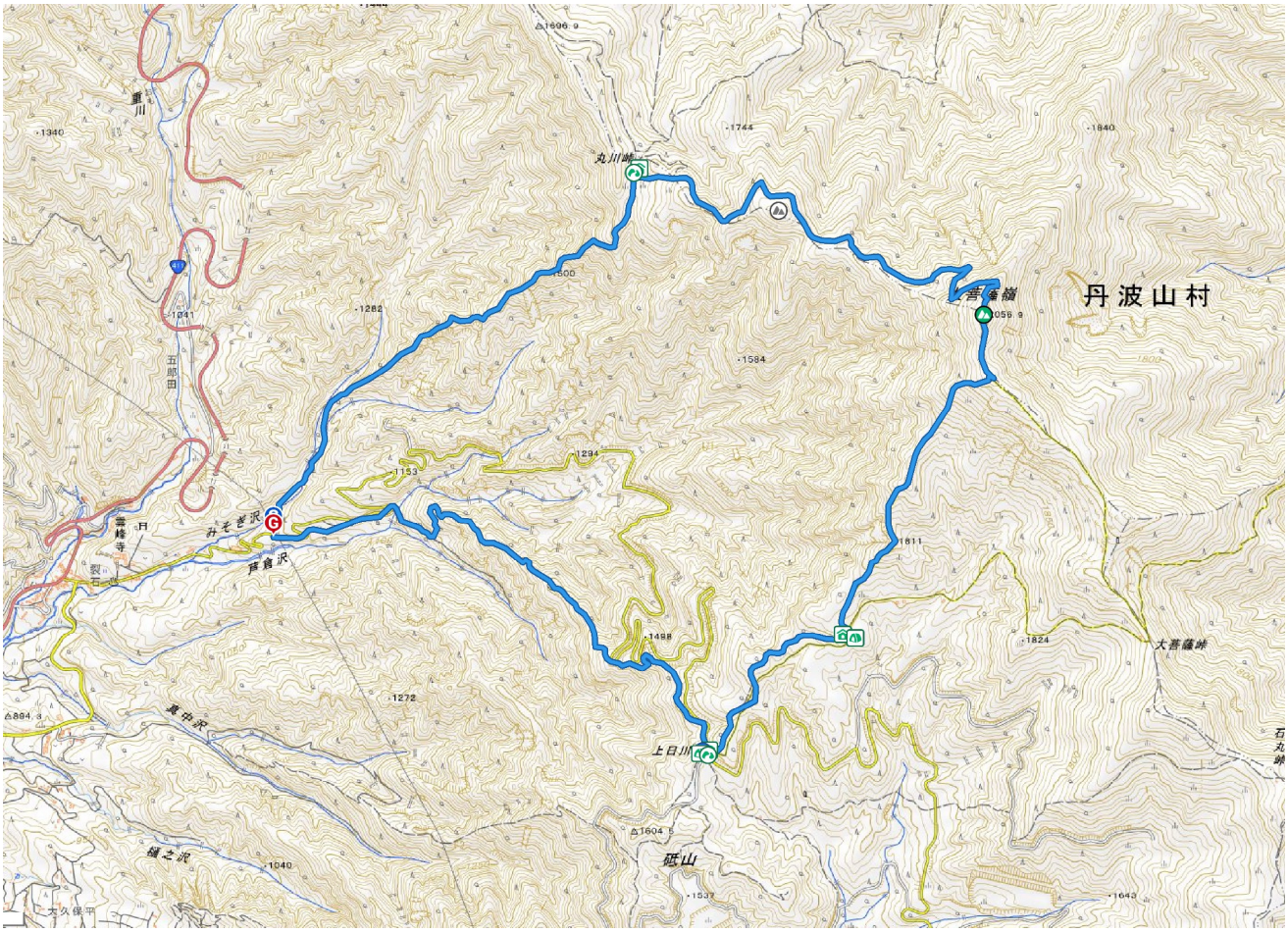
両山とも、年末を飾るに相応しい大変ご利益のありそうな山名であり、また両神山の下山時には特別天然記念物で神の使いとされるニホンカモシカにも出会え、しばしの間、じっとこちらを見つめてくれたことから、来年は良い事があると勝手に思った年の瀬でした（ニホンカモシカとは二回目の遭遇であり、ツキノワグマの遭遇と同じ回数になりました）。



出典：ヤマップ地図

以下、登山データです。

登山データ：距離 9.8km　累積標高上り 1,390m　登山区分 日帰り （ヤマップのデータを転記）



登山データ：距離 10.9km　累積標高上り 1,124m　登山区分 日帰り （ヤマップのデータを転記）

では、今回の山行について報告します。
今回の登山は埼玉県と山梨県という遠方でしたが、年末年始休暇で時間的に余裕があった事、また公共交通＋レンタカーの場合、宿泊する宿を確保しなければならないのですが、時期的に宿の予約が難しかったこと（全国旅行支援で宿が取れない）から、いつも通りマイカーでの登山としました。
さて、登山口までの移動時間は休憩を含めて約15時間かかるので、往復の移動に3日を費やします。1日ぶっ通しで運転しても良いのですが、運転だけならまだしも、後に登山を控える身としては体力を温存したい。という事で、1日目は午後から出発、2日目の午後の早い時間に登山口へ到着してたっぷりと寝る作戦とします。
まず初日は新名新の土山SA（滋賀県甲賀市）で車中泊します。心配していた帰省の渋滞も、進路が逆なのでまったく無し、非常にスムーズに到着しました。しかしながら、ここで大失敗！新しい高速路線に多いのですが、ここは上り下り路線共用のサービスエリアなのです。という事で、私の進行方向の駐車場は空いていても下り側は満車、帰省客が多くてサービスエリア内は大混雑、食事処で晩ご飯を食べる気も起らなかったことから、弁当を購入しさっさと食べてすぐに寝ます。
年末年始で物流もあまり動いておらず、トラックが少なくて快適（トラックはエンジンを掛けて寝ていてうるさい）、いつも通り熟睡し朝の6時過ぎにのんびり出発します。まず目指すのは埼玉県の両神山です。ここからは、名古屋湾岸地域を通りながら新東名で新清水JCTを目指します。この区間も渋滞は無く、新清水JCTからは中部横断自動車道を北上し山梨県中央市方面に向かいました。それにしても新東名、制限速度120kmの区間は本当に走りやすい、カーブも縦断勾配も非常に緩く三車線の車線移動さえ気を付ければ非常に運転が楽です。でもなぜか、120kmで巡行している人が少ないのは気のせい？たまたまなのかも知れませんが、大半の車は110km以下で流れています。
毎回、通る度に思う事なのですが、謎！ 日本人の気質に関係するのかもしれません。
甲府盆地に入ってからは国道140号で雁坂トンネルを抜け、いよいよ埼玉県に入ります。
この辺り、はっきり言って山奥で急峻な地形、谷沿いに人が住んでいる事にも驚きますが、この道路を作ったことが素晴らしい。もうすぐ雪で閉ざされる時期になるのかもしれませんが、登山で遠征に行くたびに山口県の道路網も含め、人が住む環境は本当に恵まれていると感じています。
さて、両神山の登山口（日向大谷口）に到着する前に日帰り温泉に立ち寄ります。昨晩は風呂に入っていなかったので、お湯に浸かりたくてたまりません。道中沿いに２件の温泉を調べておいたので楽しみでした。しかしながら1軒目はなんと定休日、そして2軒目は閉館中の看板。移動中、唯一の楽しみの風呂に入れない。周辺には他に温泉は無し、もうどうしようもないので諦めて登山口に向かいました。
15時過ぎ、無事に登山口に到着、駐車場は登山口に近い場所から4箇所あります。近い2つは有料ですが舗装されておりトイレも近い。遠い2つは無料だが、登山口からやや遠く未舗装でした。
さて、私の選択はというと無料の駐車場です。有料駐車場を確認したのですが、横断勾配がきつくて絶対に熟睡は出来ないと判断、安眠場所を求めて遠くても平坦な無料駐車場へと移動しました。
駐車場には、まだ10台程度の車が残っていましたが、両神山は基本的に日帰りの山なのでこれらの車の持ち主も続々と下山してきます。

私はと言うと、下山者を横目で見ながらのんびりと読書し、夕方は暖かいものが食べたかったのでお湯を沸かしてカレーメシと途中のコンビニで買ってきたサラダなどで腹を太らし就寝します。
そうそう、お風呂に入れていなかったので、ボディ用ペーパータオルで全身を拭き一安心です。
さて、翌日は7時くらいからのんびり登ろうと思っていたので、たっぷり寝る予定でした。
しかしながら、そこは師走の山奥の登山口、気温は-2℃程度でしたが、登山用寝袋の保温力を過信し服装はTシャツと短パンという薄着であったため、寒くなって途中で起きてしまい、新たに毛布を追加、さらにダウンジャケットを着込んで再度眠りにつきました。
それにしても、周囲に誰もいない山奥の真っ暗闇の駐車場で、一人で寝るのに慣れてしまった自分をちょっと誇らしく思ったりもします。慣れは恐ろしいものです。
翌朝目が覚めると駐車場には7台の車が駐車しており、皆さんはそそくさと準備をして出発されていました。自分もお湯を沸かして朝ご飯を食べ、7時6分にスタートします。
まずは、登山口までは舗装路を歩きます。有料の駐車場には、既に数台の車が駐車していましたが、もぬけの殻、既にスタートされているようでした。

車中泊した駐車場（朝の様子）

両神山荘 ここからスタートします

さて、前半は川沿いの切れ込んだ谷間を進むアップダウンが少ない道を約2km進みます。下調べでは山頂まで約5km、上りの累積標高が約1,400mであることからも、この穏やかな登山道が終わると3kmの急登が待ち構えている事は明らかです。
案の定、清滝小屋からは岩場も含めかなりの急登となりました。しかしながら、尾根に取り付き両神社までくると残り約1km弱は尾根沿いの比較的穏やかな道に変わったことから、キツイ上りは2km程度と短かったと言えます。
9時48分、無事に山頂に到着しました。実際に登った感覚としては、鎖場なども含め、メリハリのある登山道であった事から、あっと言う間に到着したというのが本音のところです。
山頂では約20分間、他の登山者と談笑しながら冠雪した南アルプスや富士山、奥秩父の山々の景色を楽しみ下山しました。下山して駐車場に到着する寸前、左側の山の斜面に大きな物体が。一瞬、熊かとも思いましたが実はカモシカ、むしゃむしゃと餌を頬張りながらじっとこちらを見ています。カモシカはなかなか逃げないのんびりした動物なので、ずっと私とにらめっこ、おかげで良い写真が撮れました。

最初は緩やかな登山道

結構な区間、沢沿いを進みます

あちらこちらで、いきなり出てくるのでビビります

続々、現れます

急登の区間に入ると鎖場もあります

山頂直下は岩場が主体となります

最後のひと登りです

両神山　山頂に到着です

冠雪した南アルプスの山々

奥秩父山塊の盟主 金峰山方面も見えます

ニホンカモシカ…実はこの山にあった看板

本日、私が出会ったカモシカはおじいちゃん？

さて、下山したのが12時少し過ぎ、次の目的地である大菩薩嶺近くの道の駅 花かげの郷まきおか（山梨県山梨市牧丘町）を目指します。

その前に温泉です。もう、湯船に浸かりたくてたまりません。

昨日、定休日であった大滝温泉 遊湯館に寄ります。時間は13時過ぎ、お客さんも少ない昼間から入る登山後の温泉はいつも格別です。しかも、ここの泉質は私好みのPH高めのアルカリ泉で、とろっとした肌触りが非常に気持ち良い。のんびりと温泉を楽しみます。

温泉を満喫した後、今晩の車中泊目的地の道の駅に到着したのは15時、ここからはのんびりタイムです。徒歩圏内にコンビニもあるので、不自由は無し。読書しながら、時間を潰します。

と言っても、登山の疲労と山口県よりは1時間近く日没も早いので、あっという間に周囲は暗くなり就寝タイム、翌朝4時起き5時出発、登山口着予定は6時です。

しかしながら、道の駅の車中泊は登山口や高速道路とは違い、リスクが高いと理解していましたが、やはり悪い予感は当たるもの。

23時頃、走り屋の集団が登場、大きな排気音で目が覚めてしまいました。それから約30分コーヒーを飲みながらワイワイ話したり、空ぶかしをしたりでもう大変。他にも数台の車中泊の人がいたと思いますが、多分みんな目が覚めてしまい、早く立ち去ってくれと祈っていたと思います。

さて、彼らが立ち去ったあとは静かになったので、再度の就寝タイムです。しかしながら、今度は午前2時過ぎ、顔の痛さに目が覚めてしまいました。身体はダウンジャケットに寝袋ですので寒くはないのですが、顔が痛い。

車のエンジンをかけて外気温を確認するとマイナス6℃、アイドリングストップに関わる条例もあるためエンジンもかけにくい。という事で、登山用のネックウォーマーとビーニーを被り、フードで顔を覆い寝ました。
さて、予定通り起床し、食事を摂り、登山口に向かいます。以前、雲取山に登った際に、この方面を通っているので多少は土地勘があったことから、問題なく裂石の駐車場に到着しました。
ただし、既に10台近い車が駐車しており、止めれる場所は限られている状況でした（危ない危ない）。
ここで、なぜ登山口の駐車場で寝なかったのかと言われそうですが、理由は二つ。
まず、登山口駐車場の標高が高いので夜中に極寒になることが予想された事、また事前のリサーチでは、駐車場の地面は未舗装で荒れており、また傾斜がきついため車中泊に向かないとの情報を得ていたことによります。
案の定、車中泊は難しいというぐらい傾斜がありましたので、就寝は道の駅で正解でした。
さて、登山口には6時に到着しましたが、まだまだ暗いのでのんびりと夜明けを待ちます。
そうこうしているうちに、数台の車が駐車場に入ってきてほぼ満車となり、また準備を終えた登山者は続々と山に入っていきます。
私はというと、なんとなくテンションが上がらないので、まだまだのんびり、準備が整った6時53分ようやくスタートします。
大菩薩嶺は登山初心者向けの山として人気で、上日川峠からスタートすればハイキング気分で登れる山です。
しかしながら、裂石から上日川峠までの車道は冬季閉鎖中であることから、ここから丸川峠を経由して大菩薩嶺を目指すルートとしました。
丸川峠までは延々と尾根に沿って登っていきます。昨日の疲れもあるためか、意外と身体が重い。
それもそのはず丸川峠の手前までの区間を下山後に勾配を計算すると350m/kmあり、それなりの上りとなっています。

登山道は良く整備されており、非常に歩きやすい

標高が上がるにつれ、雪の登山道となってきます

また、丸川峠の手前からは積雪があり、ここからは標高を上げるにつれて雪が深くなっていきます。
特にこの登山道は山体の北西側に位置する事から、雪解けが進んでいない状況でした。
ただし、ここから先は急こう配の斜面もなく、尾根を水平移動するような感じなのでアイゼン等も必要無く、問題なく歩くことが出来ました。

丸川峠から見る富士山

北側斜面は、雪が残っています

ずっとなだらかな登山道

気温は低いですが、気分はハイキングです

9時30分過ぎ、無事に大菩薩嶺の山頂に到着です。山頂は事前情報通り展望はまったくないため、山頂標の写真を撮影した後は、そこから少し下った展望が効く雷岩で休憩としました。
雷岩からの眺望は最高で、私が今まで見た富士山の中で一番美しかったと言えます。距離間といい比高差といい申し分ありません。そして、この季節ならではの冠雪と相まって、素晴らしいの一言です。

大菩薩嶺の山頂、展望はなし

雷岩から見る大菩薩湖と富士山

さて、雷岩で少し休憩したあとは、美しい唐松尾根を下り上日川峠へ、そこから裂石までは登山者とほとんどすれ違うことのない静かな山歩きを楽しみ、昼前、無事に駐車場に戻ってきました。

甲府盆地と南アルプスの山並み

天候に恵まれました、穏やかな大晦日です

大菩薩嶺は、初心者に最適な百名山と言われていますが、このコースはそこそこの距離があり、また雪を楽しめて満足いくものでした。

下山後は近くにある日帰り温泉で汗を流し、大晦日の高速道路を走り、サービスエリアで車中泊、初日の出をバックミラーで見ながら無事に自宅に帰り着きました。